

ACT-∞



微生物の 知られざる生態 その最前線

2024年 11月14日 (木) 13:00~

電気通信大学 80周年記念会館3階



微生物が
動く意味



日時・会場

2024年11月14日（木） 13:00-17:00

電気通信大学 創立80周年記念会館3階

京王線調布駅より徒歩5分、正門入ってすぐ左の建物です

<https://www.uec.ac.jp/facilities/exchange/80th/access.html>

主催

科研費 学術変革領域B「微生物が動く意味～レーヴェンフックを超えた微生物行動学の創生～」

<https://ugokuimi.com>

JST ACT-X「環境とバイオテクノロジー」領域

https://www.jst.go.jp/kisoken/act-x/research_area/ongoing/bunya2020-2.html

概要

我々を取り巻く環境中には多様な微生物が生息しており、重要な生態的機能を果たしている。しかし、微生物は簡単には観察することができないために、その生態にはまだまだ多くの謎が残されている。本シンポジウムでは、動きや生物間相互作用をキーワードに、それら目には見えない生き物たちの知られざる生態に迫る最新研究を紹介する。また、本シンポジウムは公開シンポジウムとし、広く若手研究者の交流の場として今後の本分野の展開の方向性について議論すると共に、チーム型研究費の獲得経験者には経験を共有していただき、こういった形で大型研究費の獲得をめざすのか、そのあり方・可能性についても議論する場としたい。

開催趣旨

科研費 学術変革B「微生物が動く意味」では、生命科学と理工学の研究者が融合することで、微生物がみせる様々な行動の動作原理や進化的意義を統一的に理解することを目標に研究を進めている。一方、JST ACT-X「環境とバイオテクノロジー」領域では、バイオテクノロジーによる環境問題の解決を目指す若手研究者が、独自の発想を駆使しながら研究を進めている。

両プログラムには、多彩な微生物を研究対象とした多様な研究背景の研究者が含まれており、その交流によって新たな研究シーズが生まれる可能性は高い。加えて、両プログラムに共通して関わるアドバイザーや研究者もおり、従前からその親和性は非常に高いものと考えられてきたが、残念ながらこれまで両プログラムが連携する機会は持たれなかった。

そこで今回、各プログラムに参加する研究者の交流を目的とした公開合同シンポジウムを企画した。微生物の動きや生物間相互作用の研究に関わる学生・若手研究者、これからチーム型大型研究費への申請を考えている若手研究者の参加を歓迎する。これを機に生まれる新たなネットワークが研究者同士の将来的な連携や異分野融合、研究の大型化（大型研究費獲得）へと繋がり、微生物行動学の発展、環境問題の解決に資する新たな技術の開発に繋がることを期待する。

世話人

菊池義智（産業技術総合研究所; y-kikuchi@aist.go.jp）

竹下和貴（秋田県立大学; kazu-t@akita-pu.ac.jp）

プログラム

13:00-13:05 あいさつ 菊池義智（産業技術総合研究所・学変B）

13:05-13:25 菊池義智（産業技術総合研究所・学変B）

13:25-13:45 竹下和貴（秋田県立大学・ACT-X、学変B）

13:45-14:05 中根大介（電気通信大学・学変B）

14:05-14:35 緋田安希子（広島大学・ACT-X）

14:35-14:55 菅哲朗（電気通信大学・学変B）

休憩

15:15-15:45 高木悠花（東京大学・ACT-X）

15:45-16:15 尾上弘晃（慶應義塾大学・学変B）

16:15-16:45 宮澤佳甫（金沢大学・ACT-X）

16:45-17:00 総合討論

18:00- 交流会（希望者のみ）